

総括評価表

重点課題 1

「学習指導の改善と確かな学力の向上」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価	総合評価			
(全体レベル) 指導方法の工夫・改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換 ④読書習慣の定着化、読書内容の向上 ⑤進路意識の高揚	評価指標 ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 70%以上 (70.0%目標→74.4%) ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 60人以下(60人目標→63人) 学年別進路保護者会出席率 55%以上 (55%目標→65.8%リモート出席含む) ③生徒による授業評価「理解が深まっている」 生徒割合 85%以上(85%目標→81%) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 (80%目標→81%) ④図書貸出冊数一人 7.5冊以上 (7.5冊以上目標→5.28冊) 生徒一人あたりの入館回数 10回以上 (10回以上目標→9.95回) ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上(85%目標→82.3%) 進路決定率 100%(100%目標→92.0%)	評価指標による達成度 ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 79.2% ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 83人 学年別進路保護者会出席率 54.0% (3学年 77名, 2学年 101名, 1学年 89名) ③生徒による授業評価 「理解が深まっている」 81% 「興味・関心が高まっている」 81% ④図書貸出冊数一人 3.07冊 生徒一人あたりの入館回数 6.16回 ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 81.7% 進路決定率 97.1%	① B ② C ③ B ④ C ⑤ B	総合評価 ① 評定 ② ③ B ④ ⑤ B	総合評価(評定) B	
	活動計画 ①-1 課題解決への自主性確保(宿題との相違性)の効果的な実施(継続) ①-2 補習や個別指導の効果的な実施と学習環境整備(継続) ①-3 基礎的・基本的知識等の定着(継続) ②-1 学習時間記録の効果的な活用(継続) ②-2 予習を前提とした授業展開の工夫(継続) ②-3 課題の効果的な提供(継続) ②-4 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路, 年間) ③-1 授業公開, 研究授業の活性化(継続, 継続)	活動計画の実施状況 ①-1 各教科において個別指導の場を工夫し、生徒個々のニーズに応じた学びの提供と弱点の克服に資することができた。欠点保持者に対して個々に学ぶ手立てをきめ細かく指導した。学習進度に応じてバランス良く計画的に週末課題等を与え、アフターケアとフィードバックを行った。自主性を高めるために中・後期の声かけを控えたことで、週末課題プリントが余っている状況が見られた。家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着については、二極化が見られる。 ①-2 早朝、放課後、長期休業中の補習については、週時程34時間への変更や四国インターハイの運営補助等に対応し、可能な限り組織的・計画的に実施した。3年生については、週1日(金曜日)の放課後1時間の補習時間を確保した。また、8時間目に該当する時間を使って、特定科目の特別講座も実施した。朝補習のほか、小論文、面接集団討論等の指導を組織的・計画的に実施した。さらに、創立100周年記念事業として整備された自主学習室を活用し、主体的な学習が習慣化された。 ①-3 単元の途中などに適宜小テスト等を導入し形成的評価を行うとともに、年3回の課題テストを実施し、基礎・基本的内容についての理解度を把握した。 ②-1 毎日の「自主創造ノート」への記録や、「生活実態調査」を実施して学習状況を把握した。 ②-2 次回の授業内容に直結した「読む・調べる・書く」等の課題を与え、予習したことに価値がある授業を展開した。これに取り組ませることにより、新しい興味・関心、知識をもたせ、これらを応用して問題を解いたり議論をした。 ②-3 各教科のバランスを取りながら取り組みやすい課題、時間がかかる課題等を織り交ぜて提供した。年度後半は週末課題プリントが余る様子が見受けられたが、進路室の教材に自主的に取り組む生徒数は増加した。 ②-4 昨年度に引き続き、外部施設を利用して開催した。進路指導主事、学年主任等が、生徒の学習状況(家庭も含む)、入試制度、保護者としての心構えと必要な準備等について、各学年に応じた説明及び依頼を行った。例年よりも参加者が少なかったことで、保護者への情報提供が十分でなかった点もあった。 ③-1 教員相互の授業を参観する公開授業週間(9/9-22, 11/1-11)を計画し、授業改善及び授業力向上研修を効果的に実施した。空き時間が同じ教員が教科を超えて授業を参観し、放課後等を利用し	所見 昨年よりも平均学習時間は増加し、定期考査を軸に学習習慣をつけるという目的はある程度達せられた。しかし、テスト直前でも家庭学習時間が1.0時間未満の生徒数は昨年よりも増加しており、生徒の意識変革と自立学習力の育成が課題である。 全学年で読書量が減っており、今後、1年次からの進路講演会や学年集会等で読書による知の構築の推進を図る。 進路に関する情報提供については、早期及び継続的に行っており、情報が錯綜する現状の中で、最新の入試動向等、生徒の進路実現に向けた多くのヒントを提供することができた。進路講演会や進路保護者会、集会での講話など	学校関係者の意見 基礎学力の向上には、家庭学習の習慣化は必須条件である。 また、受験学力の向上も、主体的な学習時間の割合を増やしていくことが肝要であり、新しく整備された自主学習室の活用により、望ましい学習習慣が定着することが期待できる。 「自主創造ノート」の活用は、生徒とのコミュニケーションをとる手段として有効であるので、今後も継続されたい。 進路保護者会の出席率を上げるために、普段から生徒を介さずとも様々な情報提供ができる手段が必要である。 生徒の学方向にとって授業が最も大切である。引き続き研修等を重ねて授業改善に努	①「学びに向かう力」を育成するため、長期・短期の学習計画を立て、実行・自己評価・次計画の改善と、学習のPDCAサイクルを実践させる。 ②-4 さくらメール等も活用し、保護者にできるだけ直接情報提供できる機会を増やす。 ③引き続きICTの活用を推進するとともに、観点別	

	<p>③-2 生徒による授業評価の工夫(総務, 渉)</p> <p>③-3 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(総務)</p> <hr/> <p>④-1 魅力ある図書館づくり(情報・図書)</p> <p>④-2 学習と読書の関連性強化(情報・図書, 全教員)</p> <hr/> <p>⑤-1 進路情報の収集と効果的な提供(総務)</p> <p>⑤-2 進路ガイダンス及び進路保護者会(説明会, 講演会等)の充実(総務)</p> <p>⑤-3 就職希望生徒への指導の強化(総務)</p>	<p>て事後研修を行った。</p> <p>③-2 分かりやすさ, 新しい知見の獲得, 将来とのつながり, 学ぶ面白さ, 学力向上の実感を視点を授業評価を実施した。</p> <p>③-3 生徒の学びとそのプロセス, 既習事項及び今後学ぶ単元との系統性を考慮した授業が展開できた。また, 常に学習のねらいを意識し, これを生徒と共有できている。</p> <hr/> <p>④-1 「図書館だより」を毎月発行するとともに, 昨年度に引き続きホームページへ掲載するなど, 広く啓発活動を行った。</p> <p>④-2 タブレットの導入もあるが, 国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で, 図書館の積極的な利用を図った。また, 進路指導室では, 大学入試(小論文対策等)に限らず, 知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。また, 新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p> <hr/> <p>⑤-1 受験後に提出した「受験報告書」(小論文, 面接, 感想等), 過去問(赤本・青本等)を整理し紹介した。進路室利用ガイダンス等により, 1・2年生の来室人数, 資料活用が増えた。進路選択が現実のものとなる3年生に対しては, 大学及び予備校等から全国レベルの変化等の情報を得るとともに, 精度の高いデータを担任と共有し, きめ細かな進路指導を行った。出願対策, 進路先決定に資することができた。</p> <p>⑤-2 12/14 1・2年生を対象に進路講演会をリモート(1クラスのみ対面)にて実施した。本年度はベネッセコーポレーションの島本氏を招き, 入試制度のほか, それぞれの学年の現状, 今およびこれからすべきこと等を具体的に伝えた。自己実現に向けて必要な知識, 情報を得るとともに意識改革が図られた。</p> <p>⑤-3 生徒本人や保護者の考えを十分に聞き, また個人的な相談に応じながら適切な進路先決定に努めた。履歴書, 志望理由書作成を通して, 社会生活上の基本的なマナーやコミュニケーション能力等, 社会人・職業人としての基本的な能力を培った。</p>	<p>で学年ごとに具体的な課題提示ができ, 受験に向けた学習への意識変革につながった。</p> <p>今後, より進路意識を高め, 目標のぶれや安易な妥協を食い止めることを目指す。</p> <p>加えて, 与えられた情報や提案を生徒自身が自分なりに解釈し結論を出す力の育成も目指す。</p>	<p>めて欲しい。</p> <p>また, より興味・関心を引き出し, 理解を深めるために, タブレットの活用方法の研究も進めて欲しい。</p> <hr/> <p>電子書籍も貸出数にカウントしてもいいのではないか。いわゆるケイタイ小説を読む生徒も増えてきているように感じるので, 県立図書館の電子書籍などの利用ももっと周知し, 利用を推進するべきである。</p> <p>最新の入試情報とその入手方法や, 進路資料室の活用方法など, 必要な情報を今後も早め早めに提供していただきたい。</p> <p>進路決定へのモチベーションを高めるためにも, 社会と繋がる経験ができる「総合的な探究の時間」での探究活動をさらなる充実が求められる。</p>	<p>学習状況評価を, 学習内容への関心の高まりや学力向上に繋げられるよう授業改善に向けた研修を実施する。</p> <hr/> <p>④-1 読書の習慣化のため, 電子図書の活用を推進する。</p> <p>④-2 総合的な探究の時間でも, 学びを深めるため, 図書館の積極的な利用を図る。</p> <hr/> <p>⑤-1 生徒はもとより, 教員の進路室利用を促進させ, 進路指導の質的向上を目指す。</p> <p>⑤-2 放課後, 進路希望別にミニ講演会を開催するなど, 個々に応じた情報提供の場を設ける。</p> <p>⑤-3 継続して実施し, 希望者全員の内定を目指す。</p>
--	---	--	---	--	--

* 「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 2

「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価		
(全体レベル) 学校教育全体の中で、差別を見逃さない人権感覚と、自他を大切にできる態度を育み、人権尊重の精神の涵養を図る。 (下位組織レベル) ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり ②人権学習、啓発活動の充実 ③教職員研修の充実 ④家庭や関係諸機関等との積極的な連携	①人権学習ホームルーム活動満足度90%以上(90%以上目標→92%) ②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱う個人権課題 10課題以上(新規)	①人権学習ホームルーム活動満足度96.8% ②人権学習ホームルームでは、3学年とも同和問題について理解を深めた。他には1年生で災害時における人権問題と社会の中にある人権問題(高齢者)、2年生ではいじめ(子ども)・デートDV(犯罪被害者等)・インターネットによる人権侵害を取り上げた。人権の日にはヘルプマーク(障がい者)・パープルリボン(女性)・多文化共生(外国人)の話題を扱った。そしてセクシュアルマイノリティについての講演会を開催した。	① A ② A ③ A ④ C ⑤ A	総合評価 (評定) B A	④HPへ資料を掲載するために、著作権についての知識を深める。	
	③校外研究大会・研修会(地域研修含む)参加率 全職員1回以上(新規) ④PTA役員会での研修会の案内チラシ配布と、HPへ人権の日の資料や校内行事の掲載(新規)	③職員朝礼時に短時間で研修を行うなど工夫することで、全職員1回以上参加できた。 ④PTA役員会で1度チラシを配布した。しかしHPの更新は全くできなかった。				
	⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度90%以上(90%以上目標→96%)	⑤特別支援教育相談活動に係る職員の満足度 96%				
	⑤特別支援教育の充実	①-1 落ち着いた学習できる環境作りの促進(全職員) ①-2 生活実態調査の実施や個人面談等でのいじめの実態の把握および対応(人権、生徒) ②-1 個人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権) ②-2 人権教育講演会、人権問題意見発表会及び人権問題啓発映画会の実施(人権) ②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(人権) ③-1 指導方法の工夫・改善を図る研修会の実施(人権) ③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告(人権) ③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権) ③-4 地域との連携(人権) ④-1 保護者への啓発活動の実施(人権) ④-2 地域との連携(人権) ⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談) ⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネート(教育相談) ⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)	①-1 すべての教科及び人権学習において協働学習が取り入れられた。 ①-2 生活実態調査や個人面談等で、いじめの実態把握と対応が迅速に行われた。 ②-1 内容を一新し、インターネット上で起こっている「同和問題」を扱うなどして継続的に実施できた。 ②-2 7/4土肥いつき氏による「ありのままのわたしを生きる」ために」と題した講演会をハイブリッド方式で実施した。10/4生徒代表7名が個々の視点で人権問題についての考えを発表した。3月に映画会を行った。 ②-3 じんけん部員が「中・高生による人権交流集会」に参加した。人権委員会では、阿波高祭での展示物を作成し、クラスでも説明した。資料「知って考えて行動しよう」を案内したり内容を考えたりすることができた。 ③-1 学年別研修会および先行授業研究を行い、学年担当教員に加えて主事も参加し、活発な意見交換ができた。 ③-2 オンラインを含め、実施された各種研究大会や講演会には、複数の教員が参加した。 ③-3 講演会の内容や人権問題意見発表会を聞いての生徒の感想を読んだり、HR担任や教科担任が授業の折に話題に触れたりすることで共に学ぶことができた。 ③-4 年度当初の研修では、柿原ふれあい会館にて、地域の歴史について教えていただいている。 ④-1 人権の日の資料「知って考えて行動しよう」を保護者に届けることが積極的にはできなかった。 ④-2 ふれあい会館祭にもボランティアとして、また演者として参加した。 ⑤-1 生徒・保護者が安心して学校生活を送るために、各HR担任と保健室・教育相談課員の連携をさらに深めることができた。 ⑤-2 スクールカウンセラーが年間96時間来校してくださることで、学校での相談体制を作ることができた。 ⑤-3 12/8 本校スクールカウンセラー藤田知香氏より、「相談室から見た阿波高の現状」と題して、講演・演習を行っていただいた。	所見 特別支援教育については、スクールカウンセラーの配置により、生徒・保護者・職員の相談・解決がスムーズに行われた。さらに、校内での連携を高めていきたい。		学校関係者の意見 全般的に活動計画に沿った取り組みができており、総合評価はAでよいのではないかと、新しい人権課題や新しい視点を取り入れた取組はよかったのではないかと、生徒が自主的に活動する場を継続して提供していただきたい。 コロナ禍ではあるが、教職員研修もさまざまな工夫を凝らしながらよく実施できている。 保護者へは紙媒体だけでなく、様々なツールで啓発活動に取り組んで欲しい。 生徒だけでなく、保護者もスクールカウンセラーを利用できることをもっと周知してはどうか。

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 3

「自己実現と社会貢献意識を高めるキャリア教育の推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) 自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。 (下位組織レベル) ①「キャリア・パスポート」を核としたキャリア教育のプログラムの充実 ②地元自治体や企業と連携した「地域探究活動」の推進 ③主権者意識を高める教育の推進	評価指標 ①スクール・ポリシーを基にした、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の関する4つの能力の成長について、肯定的回答が70%以上(新規)	評価指標による達成度 ①・自分の興味・関心があるものを見つけることができた ・・・・74% ・自分が設定した目標に対して、計画を立てて行動することができた ・・・・67% ・ストレスやプレッシャーとうまくつきあうことができた ・・・・61% ・自らの進路に向け、積極的に行動することができた ・・・・54%	評定 B	総合評価 評定 A	①生徒が自らの成長を実感できる活動を展開 ②探究活動の連携先を拡充し、「解決策」を実践する場の拡充と外部評価の促進。
	②社会的課題に主体的に向き合い、社会に貢献しようとする意欲について、肯定的回答が70%以上(新規)	②・「総合的な探究の時間」を通して、社会の課題に対する関心が高まった ・・・・93% ・「総合的な探究の時間」を通して、社会に貢献しようとする意欲が高まった ・・・・73%	A	A	
	③主権者教育に関する活動をとおして、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が90%以上(90%以上→90%)	③政治への関心が高まった生徒は96%で目標を達成することができた。	A	A	
①-1 「キャリア・パスポート」に関する内容の授業時間数を年間6時間とする(AWA棟創設) ①-2 大学や企業との連携をはかり、アカデミックインターンシップを実施する(総探)	活動計画	活動計画の実施状況 ①-1 ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」に設定し、予定どおり実施した。 ①-2 従来より参加している徳島県立総合教育センター主催「科学への誘い」や徳島県教育委員会主催「組換えDNA実験講習会」を始め、県内外の大学が主催する講義やワークショップ等への参加を積極的に促した。特に、本校生として初めて参加した愛媛大学の高大接続科目を履修した生徒は、その活動が愛媛大学進学につながった。また、校内においても、グリーンバレー理事の大南信也氏を招き、キャリア教育講演会を実施し、学びへの意欲を高めることができた。	所見 昨年度より引き続き、阿波市や上板町との連携を図りながら取り組んだ2年生の「総合的な探究の時間」では、地域の課題を認識し、その解決に向かう姿勢とともに、解決策を実践しようする力の高まりが顕著であった。主権者教育を、積極的に行うことで、地域社会の一員であるとの自覚も高まった。	学校関係者の意見 キャリア教育の形はできている。今後も、新しい情報や視点をどんどん取り入れて欲しい。校外での活動に積極的に参加することは、視野が広がり意欲が高まることが期待できる。 地元地域の学習は将来のUターンにもつながるのではないかと。先輩の課題研究を後輩が引き継ぐことができれば、より研究が深まることが期待できる。ぜひ取り組んでもらいたい。	①-1 継続実施 ①-2 継続実施
	②地元自治体や企業との連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかる(総探)	②「総合的な探究の時間」において、阿波市や上板町の小学校で校外研修を行い、さらに、阿波市役所の職員による講義を学校で実施するなど、阿波市と上板町との連携を推進し、課題研究の取組の発展を図ることができた。			②研究テーマの継続研究に取り組む
	③-1 主権者教育教職員研修会の実施(公報) ③-2 主権者教育に関する学校行事やホームルーム活動を年間8回実施(公報) ③-3 全体計画を作成し、その実施において教科、領域間の連携をはかる(総類)	③-1 4/11予定通り実施した。 ③-2 2年生全員を対象に12/15選挙スクールを実施した。また、2年生の「総合的な探究の時間」では、主権者として地域の課題について考える取り組みを年間を通して8回以上実施した。 ③-3 全体計画を作成することで、主権者教育における学校全体の目標の明確化と教職員間における目標・計画の共通理解を行い、公民科や他教科、「総合的な探究の時間」等との連携をはかることができた。			③-1 継続実施 ③-2,3 各課、各教科との連携の更なる深化

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
<p>(全体レベル) 生徒理解の深化と信頼関係を基盤に、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。安全・安心な学校生活と、違いを認め合える人間関係づくりを推進する。また、よりよい校風を築いていくために、学校のために何ができるかを考えさせる。</p> <p>(下位組織レベル) ①社会的な自立に向けて、基本的生活習慣の確立や、規範意識の向上を目指した教育を推進する。</p> <p>②教育相談体制の充実を図り、すべての生徒が安心して学校生活を送れる学校作りを推進する。</p> <p>③「学校いじめ基本方針」の点検・見直しを図り、組織的にいじめの未然防止に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①遅刻者数(日平均)2.5人以下(2.5人以下→2.9人) 過失割合の高い交通事故発生件数 5件以下(新規) 自転車安全カード(警告書)交付数 0人(0人→0人) 特別に配慮し指導した生徒数 1%未満(1%未満→0.99%) 交通安全意識の高揚度 95%以上(95%以上→99%)</p> <p>②教育相談週間実施数 3回以上(3目標→3)</p> <p>③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 1回(1回→1回) 生活実態調査で「相談したい悩みがある」と答えた者のうち、いじめに関する項目を選んだ者の割合 1%未満(1%未満→0.3%) 自分から挨拶ができていない割合 90%以上(90%以上→87%)</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①遅刻者数(日平均)3.2人 過失割合の高い交通事故発生件数 2件 自転車安全カード(警告書)交付数 1人 特別に配慮し指導した生徒数 0.8% 交通安全意識の高揚度 97%</p> <p>②教育相談週間実施数 3回</p> <p>③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施1回 生活実態調査で「相談したい悩みがある」と答えた者のうち、いじめに関する項目を選んだ者の割合 0.2%(=1人/496人) 自分から挨拶ができていない割合 89%</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>評定</p> <p>B</p>	<p>総合評価(評定)</p> <p>B</p>	<p>② 生徒相談週間をどのような形にするとより良くなるか思考し改善する。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①-1 生徒指導全校集会の実施(生指)</p> <p>①-2 遅刻指導週間の実施と改善指導の徹底(生指)</p> <p>①-3 登下校指導や街頭指導の実施(生指)</p> <p>①-4 自転車・バイク点検の実施と講習会の実施(生指)</p> <p>①-5 警察・補導センター等関係諸機関との連携(生指)</p> <p>②-1保健室相談機能の有効活用(教育相談)</p> <p>②-2情報の共有化と支援プランづくり(教育相談)</p> <p>②-3専門家による研修会の実施(教育相談)</p> <p>②-4教育相談週間の設定(教育相談)</p> <p>②-5スクールカウンセラーの派遣(教育相談)</p> <p>③-1 教職員の共通理解(生指)</p> <p>③-2 いじめに関する教職員研修の実施(生指)</p> <p>③-3 学期別2者面談の実施(生指)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 5/2, 6/1, 7/20, 8/29, 10/3, 11/1, 12/23, 1/10リモートで生徒指導主事の講話を行い、自己指導能力の育成に努めた。</p> <p>①-2 各学期に1回(4/18-22, 10/18-21, 2/6-10)年間3回実施した。</p> <p>①-3 毎月20日の学校安全の日登校時に街頭指導を行った。交差点14か所に教員が立ち、自転車、バイクの安全、マナー等の指導を行った。また、毎日2名が校門に立ち登校マナー、挨拶、身だしなみ等の指導を行った。下校時には教頭、生徒指導主事等がバイクの出入り口に立ち一時停止、左右確認等の指導や学校周辺の巡視を行った。</p> <p>①-4 4月に生徒指導課でバイク、正副担任で自転車の点検およびステッカーの確認を行った。7/13 第1・2学年を対象に交通安全講話を実施した。7/14阿北自動車教習所で第2学年を対象に原付安全実技講習会を実施した。ブレーキング、バランス走行を行い、指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し個々のケースに学んだ。</p> <p>①-5 生指協等を通して阿波吉野川警察署、補導センターと定期的に情報交換し、内容を職朝等で職員に連絡した。また問題行動の対応についても連携を図り、助言を指導へ生かした。</p> <p>②-1 養護教諭が、家庭での問題や身体、性に関する悩み等を聴き、カウンセリングを実施した。</p> <p>②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い、支援の方向性等を検討した。</p> <p>②-3 教育相談職員研修会を実施した。12/8本校スクールカウンセラー藤田知香氏を招聘し「相談室から見た阿波高の現状」、11/1おやこひろば桜梅桃李 柳谷和美氏「デートDVとその後～自分らしく生きるためには～」の講演をオンラインで聴き研修を行った。</p> <p>②-4 年間3回(4/12-15, 9/8-16, 1/11-20)教育相談週間を設定した。</p> <p>②-5 心理的な要因により学校に来られない生徒や不安を抱える生徒に、スクールカウンセラーが生徒や保護者のカウンセリングを実施するとともに、支援方法について指導助言を得た。</p> <p>③-1 学年会において、頭髪・服装指導等について共通理解と情報共有を行った。また、問題行動発生時に生徒指導課と該当学年団が連携して動くとともに適宜職員会議を開催し、全教職員で対応した。</p> <p>③-2 中地区生指協の研修「いじめ予防を包括的アプローチで考えてみる」を本校職員にも案内し、研修に代えた。</p> <p>③-3 ②-4教育相談週間の項目に同じ。</p>	<p>所見</p> <p>予防的な指導がこれから大切となってくる。自分の可能性を信じ、自分自身を高めていくスキルを身につけさせたい。しかし、自ら課題を見つけ、問題解決のスキルを身につけるには、生徒それぞれが理想を描いたり、自分なりの美学を持つ必要がある。安心安全な環境を整え、自分自身とじっくり向き合う時間をつくり、一人ひとりの自主創造につなげたい。</p> <p>教科担任や養護教諭等からの情報が、生徒の状況を把握することに役立った。生徒の不安や悩みをいち早く気付くことができ、学年等で情報共有することができた。また、カウンセラーの活用が、問題の早期解決につながった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>引き続き、予防的な指導にしっかりと取り組んでほしい。勤務時間外の街頭指導については、教員の負担軽減を考えるべきではないか。努力義務化されたヘルメット着用について、推進するべきである。日頃からの外部関係機関との情報交換は重要であり、今後も連携を図ってほしい。</p> <p>年間3回設定している教育相談週間は、いじめ等の早期発見に繋がっている。さらに方法等も創意工夫し、そのような機会確保に努めていただきたい。</p> <p>スクールカウンセラーのほか、利用可能な外部関係機関について、生徒・保護者への周知がもっと必要である。</p> <p>校則の見直しなど、最近の動向について共通理解を図るべく研修に努めてほしい。</p>	<p>①-1 生徒指導便りを発行し、講話の質を上げる。</p> <p>①-2 事故防止の観点からも継続実施</p> <p>①-3 下校時の指導を徹底し、送迎時のマナーアップに努める。</p> <p>①-4 点検や講習会は継続実施。交通安全集会等で事故件数を減らす。</p> <p>①-5 さらに連携強化に努める。</p> <p>② スクールカウンセラーの周知方法について改善するとともに、さらに活用しやすい状況を作っていく。</p> <p>③-1 ハンドブック見直しを図り、わかりやすい指導を心がける。</p> <p>③-2 ケーススタディーを実施する。</p>	

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 5

「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) 諸活動の活性化を図るとともに、豊かな人間性を育み、主体的に取り組む意欲と実践力を高めるための機会の確保に努める。	評価指標 ①生徒のHR活動満足度 83% (83%目標→83%) 生徒の学校行事満足度 84% (84%目標→84%) 新企画数 3以上 (3目標→3) ②部活動加入率 85%以上 (87%目標→83%) ③文化祭肯定評価 85%以上 (92%目標→81%)	評価指標による達成度 ①生徒のHR活動満足度 89% 生徒の学校行事満足度 75% 新企画数 3 ②部活動加入率 81% ③文化祭肯定評価 83%	評定 A B B	総合評価 評定 B	総合評価(評定) B	①HR活動の新しい取り組みを考える。 ②部活動の広報活動を改善・工夫する。 ③生徒が主体的に取り組む学校祭とする。
	活動計画 ①-1 生徒による新しい活動の企画・運営(縮) ①-2 学校行事への主体的な参画(縮) ①-3 社会貢献活動への企画・実施及び参加(縮) ②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活動顧問) ②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活動顧問) ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活動顧問) ②-4 部活動のスリム化(縮) ②-5 活動及び結果等の広報活動(部活動顧問) ③生徒の主体的な活動支援(縮)	活動計画の実施状況 ①-1 学校祭、球技大会、予餞会では新しい企画で実施した。 ①-2 生徒会、部活動、各専門委員会が学校祭や球技大会の計画・準備・運営を行い主体的な役割を担った。 ①-3 本県開催の全国高校総体各競技会場や最寄り駅で案内係等ボランティアとして多くの生徒が参加した。 ②-1 生徒の主体性を重視し保護者と協力のもと活動した。 ②-2 4月と1月に部活動顧問会議を開催し、熱中症対策、体罰禁止、感染症対策の徹底を確認し、活動上の問題点等の情報交換をした。 ②-3 熱中症予防・感染防止・怪我予防等の対応について職員に周知し、怪我や熱中症等の報告を徹底した。 ②-4 変動なし。 ②-5 10月16日オープンスクールでの部活動体験や見学で活動紹介を行い、ホームページに大会結果や活動状況を掲載した。 ③生徒会や専門委員会において、生徒からの企画発案を促した。	所見 今年度もコロナ禍での制限から抜けきれず、1学期の球技大会中止など、十分な活動が実施できなかった。学校祭も縮小での開催になったが、生徒たちの前向きな取り組みにより、充実した活動ができた。部活動入部率が下がるなど、活動場面が少なくなりがちだが、規範意識、公共の精神、社会貢献の意識を高め、豊かな人間性・社会性を育てるためにも、活動できる機会を増やしたい。	学校関係者の意見 コロナ禍のもとでもよく工夫し、学校行事を実施できていると思う。 今年度も十分な部活動の成果が認められる。次年度の活躍にも期待したい。 怪我の予防はもとより、熱中症の予防には細心の注意を払っていただきたい。 引き続き、生徒の主体性を育てる機会となるような生徒会活動を期待する。	①コロナ禍以前の学校行事を知る学年が無く、新たなスタートとして企画する。 ②部活動の伝統的な良き部分を継続しつつ、時代に応じ生徒が活動しやすい取り組みを考える。 ③生徒会や専門委員会での新たな企画が生み出せるような組織運営を考える。	

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 6
「環境教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	
(全体レベル) 校内外の環境美化と、さまざまな課題解決学習を推進し、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に寄与する実践力の育成を図る。 (下位組織レベル) ①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育・消費者教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進	評価指標 ①清掃活動への積極的な取り組み 90%以上(新規) ②地域清掃活動の各回参加者数 150人以上(100人目標→平均189名) ③生徒の防災意識度 75%以上(75%目標→71.7%) ④生徒の朝食摂取率 93%以上(93%目標→91.5%) ⑤生徒の野菜摂取率 80%以上(80%目標→80.4%)	評価指標による達成度 ①清掃活動への生徒の積極的な取り組み 教職員による評価 87% 生徒による自己評価 90.3% ②地域清掃活動の各回参加者数 平均 186名 ③生徒の防災意識度 69.3% ④生徒の朝食摂取率 90.2% ⑤生徒の野菜摂取率 81.6%	評定 B A B B A	総合評価 評定 B A	総合評価(評定) A
	活動計画 ①-1 日常の清掃活動の徹底(競・駐) ①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競・駐) ①-3 一斉大掃除の計画的実施(競・駐) ②-1 地域清掃活動の充実による環境ISOの推進(競・駐) ②-2 教科間の連携による消費者教育(競・駐) ③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐) ④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競・駐) ④-2 「保健だより」の効果的な活用(競・駐) ④-3 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-4 保護者や関係機関との連携(競・駐) ④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐) ⑤食育全体計画の組織的な実施(競・駐)	活動計画の実施状況 ①-1 学校全体として、きちんと清掃活動に取り組んでいた。月毎に重点的に取り組む清掃目標を決めて美化委員からクラスに周知した。 ①-2 美化委員が毎日、教室のゴミの分別状況を確認して表に記入し、分別を呼び掛けた。環境委員がペットボトルのキャップを定期的に回収し、地域の事業所を通じてワクチン購入活動に協力した。また、古紙と段ボールの分別回収に熱心に取り組み、業者に回収してもらい、再生紙トイレットペーパーと交換し、校内で使用した。 ①-3 各学期と学校行事の前に大掃除を実施した。窓拭きやゴミ箱洗いなど、日々の清掃時間には十分に行き届かなかった箇所にも熱心に取り組んだ。 ②-1 5/31、10/20、12/12に地域の清掃活動を実施した。6月ば気温上昇のため中止となった。美化委員、環境委員のほか、毎回多くの生徒が参加した。継続して参加している生徒も多かった。校内外の清掃活動や校内の草取りなどを行い、持ち帰ったゴミを分別した。 ②-2 公民科を中心に、各学年で消費者教育を推進した。7/19には3年生に対して、司法書士 松岡孝典氏による講演会を実施し、成年年齢引き下げに伴う消費者の自立と責任について学んだ。また、1年生の公共の授業で消費者庁による冊子「社会への扉」を活用した。エシカル消費教育の一環として、学校祭で、「花嫁菓子」を販売し、地元の食文化について学ぶ機会となった。また、1/26に3年生が、そば米と地元野菜を用いた調理実習を行い、郷土料理に親しんだ。 ③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/2の防災全校集会では、防災士資格を持つ生徒が、全校生に向けて、防災に関するプレゼンを行い、校内の防災意識の高揚に努めた。6/15に緊急地震速報行動訓練を実施した。また、7/13には徳島中央広域連合中消防署の協力のもと、火災を想定した避難訓練を実施した。9/1の防災の日には防災HR活動を実施し、クイズや資料を通して地震発生時の対応について学んだ。 ④-1 5/20 総合警備保障 吉川裕明氏による心肺蘇生法(AED)講習会、養護教諭による食物アレルギーに関する講習会を実施した。 ④-2 保健だよりの教室掲示の際、HRで生徒厚生委員が内容説明を行った。内容は生徒の健康課題に合ったものやタイムリーな情報を集め、見やすいレイアウトを工夫した。毎月の保健だよりはホームページにも掲載し、夏休み号は三者面談で全員に配付した。 ④-3 石けん液や消毒液の補充、健康診断の補助、阿波高祭の救急処置活動、学校環境衛生に関する啓発活動等、年間を通して委員会活動を支援した。また、厚生・環境・美化の合同委員会を開催し、厚生委員と生徒有志が作成した加湿器のお手入れ動画を活用し、各教室に設置した加湿器の清掃について事前指導を実施した。 ④-4 12/14 むつみホスピタル副院長・看護部長 郡利江氏とAWAがん対策募金理事 川崎陽二之氏を招聘し、1年生を対象に「生活習慣とがん」と題した講演とがん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-5 12/7 感染症感染拡大防止のため学校保健委員会を书面開催とした。学校医と学校歯科医より、感染症対策に関する指導助言を得た。 ⑤ 各教科、科目において食育が推進できるよう、食育全体計画を作成した。学校祭では、3年生各クラスが食品バザーを実施し、食品を扱う際の衛生管理や、食を通して人とつながる喜びについて学んだ。	所見 毎日の清掃活動やゴミの分別、地域の清掃活動にきちんと取り組む生徒が多い反面、生徒が積極的に取り組んでいると評価する教職員の割合が、生徒の自己評価をやや下回っており、引き続き清掃指導に工夫していきたい。 防災に対する生徒の関心が高まるよう、訓練時以外にも防災教育を進めていく。 教職員が正しい心肺蘇生法やAED、エビペン注射の使用方法を理解し、傷病者への迅速かつ適切な対応能力を身に付けることができた。 生徒厚生委員は、自らが保健・衛生の重要性について認識するとともに、委員としての役割を果たすという責任感が育った。 生徒が健康で安全な学校生活や社会生活を送れるよう、引き続き教科、職員間の連携を図りながら健康、環境に関する指導や、消費者教育、食育を推進していく必要がある。	学校関係者の意見 校内は清掃が行き届いている。この伝統を引き継いでいただきたい。 地域の清掃活動を継続して実施していることは、素晴らしい取組である。参加者が多いことも目を見張るべきことである。 成年年齢引き下げに伴い、消費者教育の重要性は高まっている。引き続き力を入れてほしい。 防災活動については、もっと地域と連携した取組を推進していくべきである。	①-1 継続実施 ①-2 継続実施 ①-3 清掃用具の整備と補充をはかり、指導を継続 ②-1 実施時期を再考し、継続実施 ②-2 教科間の連携を強化 ③-1 継続実施 ③-2 地域の避難所としての意識を高めながら、防災活動の実施 ④-1 地域の消防署と連携した講習会の実施 ④-2,3 継続実施 保健だよりや文化祭の保健展において、厚生委員を中心に学校全体の衛生意識を継続させていく指導方法の工夫 ④-4 継続実施 ④-5 家庭との連携強化、学校薬剤師等と連携した環境衛生活動の充実 ⑤ 継続実施 ISO掲示板を利用して、フードロス問題等について啓発
	②-1 地域清掃活動を継続して実施していることは、素晴らしい取組である。参加者が多いことも目を見張るべきことである。 成年年齢引き下げに伴い、消費者教育の重要性は高まっている。引き続き力を入れてほしい。	②-1 5/31、10/20、12/12に地域の清掃活動を実施した。6月ば気温上昇のため中止となった。美化委員、環境委員のほか、毎回多くの生徒が参加した。継続して参加している生徒も多かった。校内外の清掃活動や校内の草取りなどを行い、持ち帰ったゴミを分別した。	A B B B A	B A	A
	③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐)	③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/2の防災全校集会では、防災士資格を持つ生徒が、全校生に向けて、防災に関するプレゼンを行い、校内の防災意識の高揚に努めた。6/15に緊急地震速報行動訓練を実施した。また、7/13には徳島中央広域連合中消防署の協力のもと、火災を想定した避難訓練を実施した。9/1の防災の日には防災HR活動を実施し、クイズや資料を通して地震発生時の対応について学んだ。	B B B B A	B A	A
	④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競・駐) ④-2 「保健だより」の効果的な活用(競・駐)	④-1 5/20 総合警備保障 吉川裕明氏による心肺蘇生法(AED)講習会、養護教諭による食物アレルギーに関する講習会を実施した。 ④-2 保健だよりの教室掲示の際、HRで生徒厚生委員が内容説明を行った。内容は生徒の健康課題に合ったものやタイムリーな情報を集め、見やすいレイアウトを工夫した。毎月の保健だよりはホームページにも掲載し、夏休み号は三者面談で全員に配付した。	B B B B A	B A	A
④-3 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-4 保護者や関係機関との連携(競・駐) ④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐)	④-3 石けん液や消毒液の補充、健康診断の補助、阿波高祭の救急処置活動、学校環境衛生に関する啓発活動等、年間を通して委員会活動を支援した。また、厚生・環境・美化の合同委員会を開催し、厚生委員と生徒有志が作成した加湿器のお手入れ動画を活用し、各教室に設置した加湿器の清掃について事前指導を実施した。 ④-4 12/14 むつみホスピタル副院長・看護部長 郡利江氏とAWAがん対策募金理事 川崎陽二之氏を招聘し、1年生を対象に「生活習慣とがん」と題した講演とがん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-5 12/7 感染症感染拡大防止のため学校保健委員会を书面開催とした。学校医と学校歯科医より、感染症対策に関する指導助言を得た。	B B B B A	B A	A	
⑤食育全体計画の組織的な実施(競・駐)	⑤ 各教科、科目において食育が推進できるよう、食育全体計画を作成した。学校祭では、3年生各クラスが食品バザーを実施し、食品を扱う際の衛生管理や、食を通して人とつながる喜びについて学んだ。	B B B B A	B A	A	

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 7

「地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 積極的に情報発信を行うと共に地域と密接に連携を図りながら魅力的な学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①魅力ある学校づくり ②積極的な情報発信 ③広報活動の充実	評価指標 ①阿波高校への満足度 90%以上 (80%以上→生徒88%, 保護者89%) ②本校Webサイト更新回数 年間50回以上 (年間50回以上→66回) ③学校説明等訪問中学校 10校以上 (10校以上目標→10校)	評価指標による達成度 ①阿波高校に入学して(させて)良かったと「思う」,「やと思う」の合計 生徒:80% 保護者:88% ②本校Webサイト更新回数 年間78回(1月末現在) ③学校説明等訪問中学校 10校	評定 B B B	総合評価 評定 B	総合評価(評定) B
	活動計画 ①-1 学校教育活動全般及び部活動の充実(類) ①-2 学校運営協議会による魅力化の推進(類) ②本校Webサイトの充実(情報・図書課) ③-1 中学校での学校説明会の実施(教務課) ③-2 学校公開(授業等)の実施(教務課)	活動計画の実施状況 ①-1 コロナ禍での行動制限が緩和されて感染者数が急増する時期もあったが、感染対策をとりながら可能な限り通常に近い形で教育活動を実施し、加えてオンライン授業などタブレットの活用も推進できた。また、部活動においても様々な制約がある中で、各部が工夫を凝らして充実した活動を行えた。 ①-2 学校運営協議会を設置し、学校経営方針等について承認を得るとともに、「総合的な探究の時間」や地域との連携など、学校の魅力化についての協議を行った。 ②毎月発行の保健だよりや部活動の大会記録、修学旅行等の学校行事に加え、四国インターハイ関係も掲載し、目標を達成できた。しかし、部活動では部によって更新回数に偏りがあり、今後の課題である。 ③-1 依頼のあった10中学校の進学説明会等に校長と教務主任が出向き、本校教育の概要等を説明した。また、中学校への個別訪問を実施し、中学校長に本校教育の概要等を説明した。 ③-2 オープンスクールを実施し、ICTを活用した授業および部活動を公開した。	所見 学校評価アンケートの「阿波高校に入学して(させて)良かったと思いますか。」の問いに対して、目標には届かなかったが、生徒、保護者共に肯定的な回答が80%以上あり、本校の取組にほぼ満足しているものと考えている。アンケートの自由記述では、トイレの環境整備に関する要望が多かった。	学校関係者の意見 「総合的な探究の時間」での取組など、生徒が主体的に活動できる場を多く提供することで、学校への満足度も上がる。そのことが学校の魅力化を推進することにも繋がる。 様々なツールを用いて、より多くの情報を提供できるようにしていただきたい。 進学説明会やオープンスクールは、中学生にとって貴重な機会となっている。引き続き実施をお願いしたい。	①-2 地元地域や自治体と連携し、校外活動の機会を積極的に増やしていく。 ②全保護者にさくらメール登録を促し、情報を提供できる環境を整える。 ③-1 石井中学校、高浦中学校への訪問の実現 ③-2 中学生体験入学の再開
	* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった				